

5月12日(火)第138回ほほえみ交流カフェが開催されました。ゴールデンウィークを避けいつもより1週間遅れの日程のせいか、シニア参加者は少な目

シニア	13名
講師	3名
葛が谷ケアプラザ	1名
葛が谷薬局	1名
スタッフ	8名
計	26名



冒頭、小泉代表「GWに旧東海道ウォーキングに挑戦、品川から藤沢まで3日間に分けて歩いた。歩数は1日1万5千歩。次は平塚まで」とのこと。調べると品川～藤沢で40.8キロ。1日当たり13～14キロの勘定です。小泉さんと言えど冬でも素足にサンダルがトレードマーク。この時もワラジならぬサンダルだったのででしょうか。少し気になりました。(そっちかい!と叱られそうですか)またケアプラザの和田看護師から、「フレイル予防教室」のご案内があり、チラシを配布いただきました。



本日の講演は“デイサービスふるさと”さんをお招きし、認知症対応型デイサービスのお話です。講師は横浜北西ブロック長、根岸様。横浜、川崎で多くの施設を運営されていますが、最寄りの施設は荏田南2丁目。管理者の川田様もご同席です。

デイサービスは街中でもよく目にしますが、“ふるさと”さんの特色は認知層対応型として認定を受けていること。12人以下の小規模単位で認知症専門スタッフを厚めに配置しています。利用者は医師から認知症診断を受け、要介護1以上の方が対象となります。普通のデイサービスでも認知症患者さんを受け入れておられますが、“ふるさと”さんでは費用は割高であるものの、それぞれの利用者の状態や希望に応じたよりきめ細かいサービス提供が可能です。かと言って決してお客様扱いをするのではなく、利用者も個人の状態に応じた役割を担ってもらい、一緒に施設を運営してもらうことを心がけているようで、結果として利用者の症状改善や進行を遅らせる効果が明確に出ると仰います。

認知症の方を家族だけで支えるのは困難で、お一人お一人の気持ちに寄り添う日帰りの介護サービスを提供することは地域介護のインフラとの信念で業務をされておられます。強調されていたのは、家族或いは施設でのサービスだけでは、認知症の方を支えるのは難しく、地域や隣近所の方の気付きが重要であるとのことでした。国の統計によると、介護認定者の約6割が程度の差はあれ、認知症だそうで、地域の見守りの役割はやはり大きいようです。

根岸様、大変判り易いお話を有難うございました。

続いて、5月のお誕生日は小泉代表お一人。これからも楽しみを見つけて元気に過ごしたいとのこと。おめでとうございます。そしてこれからもよろしく願います。

お楽しみコーナーは西野さんです。紙芝居「ねずみ経」、朗読「藤沢周平作 おぼろ月」、落語「ぞろぞろ」そして江戸小話「ほんとうは何歳だ」、次から次から繰り出される軽妙な語り口で会場は笑いに包まれました。



歌川さんの体操は足首、つま先、踵の上げ下げから始まり、腰、体側、肩周り、大腿部のストレッチと進みます。最後はボクシングの動きを取り入れた運動でした。有難うございました。

最後に「ふれあい丘の街」を思い思いの振付をつけて合唱してお開きとなりました。次回は6月2日（火）訪問療養真マッサージ“ひまわり”の講演とフォーククローバーさんの歌と演奏です。お楽しみに。」